

2021/1/26

(うとQ世話し 矛盾多きに見える発言のご説明 副題「公理公道につけ」)

コロナ渦での緊急事態宣言による時短要請、外出自粛要請で

「店が風前の灯火「以下」の状態」

と言っておきながら、一方で

「一刻も早いロックダウン（都市封鎖）と行動制限が必要」

というのは、明らかに矛盾。一体こいつは何を言いたいのだ？

という声が聞こえてきました。

確かに「大矛盾」です。

しかしこれは「今だけ」を捉えるとそうなのですが、時間軸を取って逆照射し、パラレル（同時併走）思考ではなくシリーズ（時間差立て繋ぎ）思考をしてみると成り立つ話です。

即ち二兎を追わず、一兎をかたづけ次に二兎目に移るという考え方です。

又「現在の自店にとってのみ都合の良い視点」を一旦脇に置き「最適解（コロナ渦最速収束）は何か」を見つけることを第一に置いて、その範囲の中で「自店に取っての最良を見つける」方が結果的に社会も自店も良い方向に進むという考えから、上述の様な意見を申し上げた訳です。

それというもお客様側に於ける「自粛馴れ」という言葉が示すように、お店側も「乗り切ったら又」「再度乗り切ったら又々」の自粛要請では、だんだんやる気もなくなってくるからです。

むしろ「この一回は死ぬほど苦しいが、その次の要請はない」

と割り切れた方が、余程踏ん張り甲斐がある気がするのです。

それでもし、その一回すらもたないなら、それはコロナ渦のせいではなく、日頃の経営努力不足としか言い様がないのかもしれない。

かくいう我が社も、先日の資金借入れを信金さんから断られた理由が、担当の方曰く「御社の業績が悪いのは、コロナ渦以前からですよ。之では融資のしようがありませんよ」でした。

なので、この際、それ以前からある経営課題も含めて、むしろコロナ渦をその「改善の良いチャンス」にしようと考えている次第なのです。

それが出来ないなら「自然淘汰の波」に従って消えるしかありません。

そういう意味では我が社は現在まさしく「ゾンビ企業」そのものです。

大切な国税をそんな企業にまで渡す必要はないと思います。

なので、なんとしてでも我が社はこの際「ゾンビ企業からの脱却」を計るべく最善の努力を断行する所存でございます。

追記)

死んだ親父がよく言うておりました。

「公理公道につけ」と。

(公理に従って公道を歩め、の意 含意 公私混同すべからず)